



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/2497/



エリア

台北市

テーマ

歴史

教育

ジェンダー

5 ジェンダー平等を
実現しよう



臺灣大學人口與性別研究
中心婦女與性別研究組(台大婦女研究室)



台湾大学婦女研究室

台湾最大のジェンダー研究機関

台湾では1985年以降、女性学やジェンダー研究の機関が次々に誕生しました。台湾大学婦女研究室は、台湾で最初の女性学とジェンダーの研究機関です。台湾大学婦女研究室は、もともと台湾大学人口研究センターの空きスペースを借用していましたが、その後、人口研究センターは「台湾大学人口とジェンダー研究センター」に改称され、婦女研究室は「台湾大学人口とジェンダー研究センター」の直属機関になりました。台湾大学婦女研究室は、アジアで初めてジェンダー研究に関する学術雑誌を刊行し、女性やジェンダーに関する研究を奨励するとともに、ジェンダー研究に進む若い研究者を育成しています。また、1997年、婦女研究室は台湾で初めて「ジェンダー研究プログラム」を設立し、台湾大学の学生にジェンダーに関する理論や問題を学ぶ機会を提供するために、さまざまなジェンダー関連科目を開講しました。

学 び の ポ イ ン ト

1.

学術研究と社会運動との関係は？

学術研究は、「客観的中立」であるべきだと言われる。そのため、政治的な主張を行う社会運動は学術研究との並立が難しいと思われるがちです。台湾でも、女性やジェンダー研究機関の設立過程において、学術研究と社会運動の関係をめぐる論争がありました。

女性やジェンダー研究の萌芽期には、女性問題についての研究発表を行う研究者は、フェミニズムという用語を避けることで、自身の研究の客観的中立性を主張したものです。それはフェミニズムの観点が客観的中立性に欠けていると見なされていたからで、政治的主張が強い傾向にあるフェミニズム運動も、当時の女性研究学界から拒絶されました。しかし、台湾の女性やジェンダー研究は徐々に増加し、若い研究者が主流の研究手法に果敢に挑戦し始めることで、フェミニズムの視点を備えた学術的研究がようやく見られるようになりました。

フェミニズム運動は、政治的主張を表すために、行動を通して女性の視点や立場から社会におけるジェンダー不平等を訴え、女性学とジェンダー研究は女性の立場やフェミニズムの視点に基づいた理論を構築し、問題を思考して解決策を提案します。フェミニズム運動による行動と女性学やジェンダー研究による理論の構築は互いに補完関係にあります。

2.

ジェンダー教育と研究の重要性

ジェンダーの研究は新しい研究テーマで、従来は研究の周縁に置かれていましたが、海外の研究の影響や台湾の研究者たちの努力により徐々に注目を集めました。ジェンダー研究の新世代の研究者を育成するためには、大学教育において体系的なジェンダーカリキュラムを確立することが大変重要です。

学部カリキュラムにおけるジェンダー関連科目の設置は、学生たちのジェンダー平等思考を育み、卒業後も日常生活や職場においてジェンダーに関する問題に直面した際に、それを改善するための原動力となります。そこで婦女研究室が開設した「ジェンダー研究プログラム」では理論や研究方法に加えて、各学部の専門領域にジェンダー視点を組み合わせています。例えば、ジェンダーと政治、ジェンダーと科学技術、フェミニズムと法律などの科目です。これにより、学生たちはそれぞれの専門分野において批判的な視点を持つことでジェンダーに関する問題に気づくことができるのです。